

＜ もくじ ＞	
1. 巻頭言：魂七年をとるーエイジングという自然の素顔を見たりアリストテレスー	1
2. 2021年度連続講座「安心の長寿社会に向けて」のお知らせ（再掲）	2
3. いきがい・助け合いサミット in 神奈川 分科会27 開催報告	3
4. 研究会からのお知らせ	4
5. 研究会から概容報告	5
6. 事務局からのお祝い	6

1. 巻頭言：魂七年をとるーエイジングという自然の素顔を見たりアリストテレスー

昔々ある年度のエイジングにかかわる講義後のレポートに「誰も好きでボケルのではない」と書いた学生がいたが、別の学生はこうも書くことができた。

私の祖母は70になったとき、「数えて70になっているのも知らないで、他人さまから言われて初めてそうかと思い、それでもなかなか納得がいかない」と話していた。言葉を継いで、「年は私がとったわけではないからね。自然が置いて行ってくれたの」という言葉の中で使われている「自然」という言葉がいまだに私の耳には快く響き、その余韻は今も消えていない。生きものとしての体のうえにきざまれていく年月と、人の心身をすっぽりと包みこんでいる社会と呼ばれるものが、いつしか人を年齢相応の老い方に変えてゆく。それが自然の姿といえるのではないかと考えたからである。その経験で、普段の生活においては福祉と肩ひじ張るよりも、「共に歩いていく意識」を持つことが先決と思われる（2年馬場翠）。



紀元前のギリシャの哲学者アリストテレスは『政治学』で、「魂七年を取る」と書いているが、政治を哲理の実践と考える彼は、この言葉で何を言いたかったのだろうか。現代の感覚で言い直せば、以下のような思索の道筋であっただろうか。

『現代エイジング辞典』（早大出版部）を編纂したときのことである。作家の大江健三郎さんから推挙の言葉をいただき、辞典の帯に「現代の大きな構想云々」と書いていただいた。ところが、採用語彙も決まり、項目執筆者選定作業中に、編集者のひとりケア・アーティストを名乗る大工原秀子さんが急逝した。彼女の選定語彙執筆者を急遽探して対応したが、「愛」の引き受け手がなく、私が書くことになった。いろいろと考えたどり着いたのが愛の反対語は何かであった。セクハラとスキップを取り違えないためにも、愛の反対語として無関心を想定して書いた。愛は無関心においてその特徴のすべてを失う。

ゆえに、現在も引きつづき「日記帳家計簿と並び売られているお花もようのエンディングノート」（石原祐子）に、愛のあれこれがいろいろな言葉で認められるのである。

一般社団法人シニア社会学会副会長
濱口晴彦

2. 2021年度連続講座「安心の長寿社会に向けて」のお知らせ（再掲）

人生 100 年時代の幕開けが、新型コロナウイルスの感染拡大と重なるとは、誰もが想像しなかったでしょう。長寿が当たり前とされていたのに、突然コロナによって、その人生を終わる人も少なくありません。

この講座では、ソーシャルディスタンスを維持しながら良い人間関係を保つには、人生の最終段階を安心して迎えるには、そして愛する人と死に別れた後どう立ち直るかなど、人生の危機的な出来事を乗り越えるためのノウハウが詰まっています。多くの方にご参加いただき、これからの生き方の参考にしていただければ幸いです。

第 1 回 テーマ：心に届く言葉～伝わるコミュニケーションの大切さ～

日 時：10月13日（水）14：00～16：00

講 師：平井葉子（一般社団法人シニア社会学会理事、フリーアナウンサー、一般財団法人健康・生きがい開発財団認定健康生きがいづくりアドバイザー、新潟県生涯学習協会総務委員）



伝えたい事が伝わっているとは限らない!! それはどうして? なぜ?
それなら、伝わるためにはどうしたらいいの?
見えない相手（電話とか）にも理解してもらえるわかりやすい話し方はあるの?
様々な場面で伝わる事を解決できるコツをアナウンサーの経験からお話します。

ラジオでアナウンサーのお仕事をされている平井葉子さんに、現在、オンライン等でのコミュニケーションが普及している中、ご専門の立場から、対面とは異なる耳に訴えるコミュニケーション場面でのポイントについてお話しいただきます。

（第 1 回のみ「ブレイクアウト・ルーム」を実施します）

第 2 回 テーマ：終活互助～①住まい～

日 時：11月13日（土）14：00～16：00

講 師：川村匡由（一般社団法人シニア社会学会理事、武蔵野大学名誉教授、行政書士有資格、福祉デザイン研究所（任意団体）所長、地域サロン「ぷらっと」主宰、山岳紀行家（元日本山岳会員）



第 3 回 テーマ：グリーフケア ～哀しみとともに生きる～

日 時：12月18日（土）14：00～16：00

講 師：中村昌子（一般社団法人シニア社会学会運営委員、市川市教育委員会外国語指導員、地域猫活動ボランティア、グリーフ専門士、ペットロス専門士、外国語活動指導員）



- 1) 開催方法：3 回とも Zoom によるオンライン開催
- 2) 参加費：参加回数にかかわらず一律 1,000 円
- 3) 申込方法：Peatix による申し込み。締め切りは 12 月 17 日（金）です。

※ 詳細については、添付のチラシをご覧ください。

※ 第 1 回のみ、ブレイクアウトルームを実施します。

※ 申込方法は添付のチラシに詳細を掲載してあります。説明をよく読んでお申し込み下さい。

初めて Peatix を使われる方は、Peatix (<https://jaas.peatix.com/>) にアクセスし、右上の「ログイン/新規登録」からアカウントの登録をしてください（メールアドレスとパスワードを入力します）。パスワード設定には 4 つの条件（①アルファベット小文字と大文字を含める、②算用数字を入れる、③#, % などの記号を入れる、④計 8 文字以上とする）、のすべてを満たしてください。また、Twitter/Facebook/Google/Apple アカウントをお持ち

ちの方は、いずれかからでもログインできます。

3. いきがい・助け合いサミット in 神奈川 分科会27 開催報告

さわやか福祉財団主催の「いきがい・助け合いサミット in 神奈川」が、9月1日・2日、パシフィコ横浜で開催された。このサミットは、2019年に大阪で第一回が開催され、昨年は愛知で開催の予定だったが、新型コロナ感染拡大のために中止になった。本年も緊急事態宣言下であり、開催が危ぶまれたが、登壇者と参加者の大部分がオンラインで、ごく一部が会場に参加するという、ハイブリッド方式で開催にこぎつけることができた。シニア社会学会は、分科会27「心身機能が低下しても、持てる能力を生かして高齢者が社会参加する方法とは」を担当した。参加者はオンラインと会場を合わせて432名（会場50名、オンライン352名）であった。



- 1) 進行役 澤岡 詩野（シニア社会学会理事、ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）
- 2) アドバイザー 袖井 孝子（シニア社会学会会長、お茶の水女子大学名誉教授）
- 3) 登壇者

- ◆中林 美奈子（富山大学歩行圏コミュニティ研究会代表）写真右上
- ◆椎根 湊（ウェルケアヒルズ馬事公苑介護主任）写真中央上
- ◆前田 隆行（DAYS BLG! 代表）写真中央下

中林氏：歩行補助車を使って高齢者がまちなか歩きをすることによって、高齢者の体力が維持され、社会参加を促進するだけでなく、高齢者の目でまちを点検することによって、コミュニティのバリアフリー化が推進される。歩行補助車の制作・改良および普及には、研究者、企業、行政、高齢者たちなどとの連携が不可欠であった。

椎根氏：有料老人ホームの入居者が、地域のイベントや保育園児への読み聞かせをし、新しい役割を得ることが、高齢者の自立といきがいにつながるだけでなく、自己管理能力の向上にも役立った。

前田氏：町田市において運営するデイサービスにおいて、認知症高齢者が就労し、収入を得ている。一般にデイサービスでは、単純なゲームや手作業などお仕着せのプログラムを提供するのが普通だが、ここでは高齢者のしたいことを最優先させており、それが高齢者の満足度につながっている。

アドバイザー：少子高齢化と経済不況が進行する今日、高齢者の自立と社会参加を推奨することは、医療・介護費用の削減、社会の活性化および高齢者イメージの変容につながり、高齢者自身の心身の健康維持、いきがい、自尊感情を生み出す。今後の課題は、本分科会で紹介された事例から共通項を導き出し、いかにして他の地域に普及展開させるかである。

進行役：できないことに対してたくさんの助けを得ながら、できることで他者のために役立つ、プロダクティブであり続けることが大切である。支え・支え合えることの循環によって「共生社会」が創られる。支え合いの地域コミュニティを創出したい。

分科会からの提言：年を重ね心身機能が低下しても、少しの支えがあればできることはたくさんある。支えられながらも誰かを支えることで、生きがいをもって自立した暮らしを営むことは可能だ。支え・支えられることが循環して「共生社会」が創られる。そんな豊かな地域コミュニティをみなのかを合わせて実現していきましょう！（袖井孝子 記）

4. 研究会からのお知らせ

(1) 第25回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年9月28日（水） 17:00～19:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：

①（前半）芸術の秋、旬なお奨めの美術館・アート情報の共有。

【例】：GENKYO 横尾忠則 | 展覧会 東京都現代美術館 | MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO

<https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/genkyo-tadanoriyokoo/>

②（後半）読書会：『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』

ブレイディみかこ（単行本 文藝春秋 BOOKS 2021年6月）

<https://books.bunshun.jp/ud/book/num/9784163913926>

※ 参加ご希望の場合は、前日までに中村 nakamurayoshiko6@gmail.com までお気軽にご連絡ください。

(2) 第24回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年10月6日（水） 15:00～17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 概 要：連続講座打ち合わせ、高齢者とテクノロジーの動向報告（八巻）

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(3) 第15回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年10月24日（日） 13:30～17:00
- 2) 場 所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）第2特別室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会
- 4) テーマ：心理劇

びしょうざ

劇団 「B笑座」第4回。

「最もへ？な劇団」です。

認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアルリゼーションすることで新たな発見が生まれます。尚、希望者は「回想」を行うために冊子『心づもり』を提供しています。

劇団員募集しています。コロナ禍ということで昼間に行います。ZOOMの参加もできます

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

(4) 第134回 社会保障研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年10月27日（水） 18:00～20:00
- 2) 報告者：東畠 弘子（国際医療福祉大学大学院教授）
- 3) テーマ：「高齢者の福祉用具利用から見た介護保険制度の課題」
- 4) zoom で開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

[阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) [小島みさお kojima.misao01@gmail.com](mailto:kojima.misao01@gmail.com)

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

5. 研究会からの概要報告

(1) 第23回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2021年8月18日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：齋田さんと安田さんの報告

① 齋田さん報告 「操られる民主主義：デジタル・テクノロジーはいかにして社会を破壊するか」(2018年草思社)

「デジタル技術が根幹から変容させはじめた社会状況と新たに生まれつつある難題を検証、処方箋を呈示する」という内容の良書である。

本書の結論「ユートピアか、ディストピアか」では、技術進歩を放置すれば、テクノロジーと機械が人間を支配し抑制する可能性大。格差の拡大と機械への盲目的依存は、今の形の民主主義社会を滅ぼすことになる、と記されている。今まで研究会で取り上げてきた課題や懸念について、体系的にまとめ、説明を行ってメンバーにとって課題整理となった。

メンバーからは、「2016年のアメリカ大統領選について書かれているが、2020年の大統領選はどうだったのだろうか?」「トランプが主張しているバイデン側の不正についてはどうだったのだろうか」「民主主義から、資本主義・自由主義に至るが、中国についても聞いてみたい。」等々、本書の内容から拡がった内容の質問が出された。

② 安田さん報告：「コロナ禍でICT活用が加速、社会を変える」

コロナ禍でICTの利用が必然(MUST)になって社会の不具合が一挙に露呈という視点で社会への影響を整理した。不具合としては、ワクチン接種予約の騒動がある。またFace to Faceのメリットも改めて想起された。ICT利用の弱点も見えた。

コロナ禍対応の過程でICTによる情報処理の重要性がクローズアップされ、政治、社会、経済、生活の面で情報活用の重要性が明らかになってきた。生活面では、文脈が読めない子供の増加も見られるが、市民が利用体験を通じてICTの利便性(時空間を超えて誰でも容易に利用)に目覚める、ということも見られる。

誰が、どのようにしてリテラシー能力アップを担うのか、自助・共助・公助それぞれの立場で検討すべき、と締めくくった。

安田さんの報告への質疑応答は、後日行う予定である。

(森 記)

(2) 第13回 第14回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

1) 日 時：2021年8月21日、9月18日(土) 18:30~20:00

2) 場 所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)研修室

3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)

4) テーマ：認知症を楽しく

びしょうざ

劇団 「B笑座」第3回。

「人形劇」も混ぜて、会員も増えたことから楽しく寸劇を行いました。今回から「朗読」も加わりました。盛り上がる一方です。Zoom参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

(3) 第24回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2021年8月25日(水) 17:00~19:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：あなたにとって、異文化コミュニケーションとは?

1. 世代間コミュニケーションギャップで感じること

2. オリンピック開催期間を通して、日本人として感じたこと

3. 外国人と接する機会が多くなってきて、日本人が身に付けていかなければなあと感じてい

るコミュニケーションの取り方

4. 参考図書を読んで、「ハイコンテキスト文化」VS 「ローコンテキスト文化」について感じたこと。

【参考図書】

「異文化理解力」 著者：エリンメイヤー 監訳者 田岡恵 英治出版

副題：相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養

家族 3 世代のコミュニケーションの秘訣や、知人のお孫さんで不登校気味の高校生のお話、息子家族とのコミュニケーションの難しさなど、また、オリンピックで敗退したものの、ある選手のコメントが素晴らしかったというお話や、パラリンピックの理念や「*inclusive society* (誰をも排除しない社会)」の考え方についてなど、活発な意見交換が為されました。 (中村 記)

6. 事務局からのお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・e メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

<10月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第266号の発行日は、10月20日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、10月13日（水）までにeメール添付にてお願いいたします。

<JAAS News 編集レイアウトをお手伝いして下さる方募集>

毎月お送りしているJAAS News は、原稿が集まった後、Microsoft Word を用いて編集・レイアウトを行い、皆様にお届けしています。ドラフト作成までは、事務局内で持ち回りで行っていますが、編集・レイアウトを担う人材が限られており、業務集中をきたしております。

会員の皆様のなかで、Microsoft Word を用いた編集・レイアウトの経験をおありの方に、無償ですがお手伝いをお願いできたらと思っております。

手伝いをしてもいいと思われる方がいらっしゃいましたら、その旨、シニア社会学会事務局あてに、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp にてご連絡ください。よろしくお願いいたします。

<緊急事態宣言中の事務所の開室について>

事務局は、「緊急事態宣言」の延長を受け2021年9月29日（水）まで休室とします。その後は様子を見て開室日程をホームページにてお知らせします。その間、電話・FAX はご利用できませんのでご容赦ください。ご不便をおかけしますが、ご用件、お問合せは、出来るかぎりeメールでお願いいたします。

会員の皆さまは、それぞれに自粛を心掛けている日々と存じますが、今なお誰もが感染する恐れが薄らぐことはないような状況です。今後とも十分な注意を払って慎重にお過ごしいただきますようお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202

電話&FAX：(03) 5778-4728

eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/